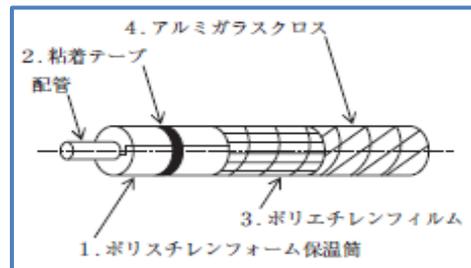


施工段階		外装		10	設備工事：			シート番号	
電気	空調	衛生	その他		保温・塗装工事			10-5	
○	○	○	—						

ポイント

■仕様の確認と建築仕上げ色の確認。

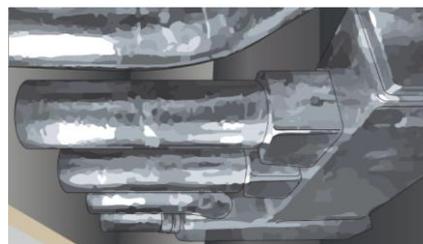
- ・設計図書にて保温・塗装の仕様を確認します。
- ・保温・塗装の要否、範囲を確認します。
- ・結露・凍結を考慮し保温範囲を確認します。
(付属品まで保温が必要か確認)
- ・周囲の仕上げ色（建築壁や天井の色）を確認し調和を図る。
- ・外灯ポールなどは工場塗装もしくは、建てる前に塗装をした方が省施工になります。
- ・付属品の塗装も忘れないようにしましょう。



例) 配管保温要領図

先輩アドバイス

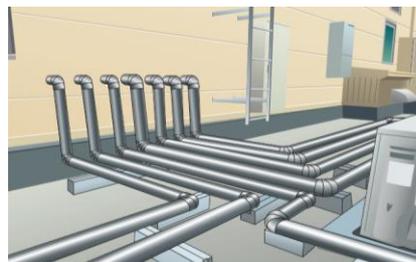
- ・保温・塗装仕様によりコストに影響がでますので早期の確認が必要です。
- ・仕様により詳細な規定がありますので仕様書を確認しましょう。
- ・色見本などにより事前に確認をとりましょう。
- ・焼付け塗装など特殊な塗装製品は納期を確認しましょう。



例) ダクト保温状況

チェック項目

- 設計図書で保温・塗装の要否、仕様を確認しましたか。
- 保温材の厚さ、仕上げは用途にありますか。
- 塗料・仕上げ種別（屋外・塩害・湿潤場所など）を確認しましたか。
- 建築仕上げ色の確認しましたか。周囲と調和がとれていますか。
- 色見本にて事前に確認しましたか。



例) 屋外冷媒配管ラッキング

失敗すると...

- ・結露・凍結の発生による漏水につながります。
- ・周囲との調和不足による塗装し直しになります。
- ・屋外の保温・塗装の仕様を誤ると、腐食の発生につながります。

共通管理項目	合理化省力化	施工性向上	品質・性能向上	工期短縮・圧縮	コスト削減(材料)	コスト削減(労務)	設備先行工事	工事区分見直し	責任所在明確化
		○	—	○	○	○	○	—	—
備考	参考文献：						制定	2019年3月1日	
	参考メーカー：						改訂	2023年3月1日	